

「子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業」(二次募集)

応募状況、審査委員会および、実行団体の事業概要など

新型コロナウイルス感染症及びウクライナ情勢に伴う原油価格・物価高騰の影響により、行政では対応困難な様々な社会的課題が生じています。また、少子化が急速に進行する中で、子育てに課題を抱える家庭へのきめ細やかな支援など、現行の行政施策では十分に対応できていない社会的課題への支援ニーズが高まっています。資金分配団体として一般社団法人コミュニティネットワーク協会は、休眠預金を活用した民間公益活動の促進の一環として、「子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業」に関する実行団体の公募実施に関する二次募集の応募状況、審査委員会、応募した実行団体および事業概要等について、以下のとおり公表します。

1. 応募状況

(1) 公募期間

2024年6月7日(金)～2024年6月21日(金)

(2) 応募総数

4件

2. 審査委員会

(1) 開催日

2024年6月28日(金) 10時～13時

(2) 審査方法

第三者の専門家による審査委員会を設置し、審査委員により本事業の「実行団体公募要領に記載した選定基準」に基づいて書類選考を行います。

3. 応募した実行団体および事業概要等

実行団体 No.1

団体名	特定非営利活動法人 MiKO ねっと
所在地	埼玉県三郷市
申請事業名	M i K Oねっと☆みんなの広場 放課後子ども広場、学習支援、子ども食堂、乳幼児おやこ広場、子どもと高齢者の交流広場、駄菓子屋さん
事業の概要	<p>○「乳幼児の親子の集う場」 ・みさと団地は外国籍の住民も多く、乳幼児を子育て中のママが集う場が不足しているので、居場所をつくる。 40 回開催</p> <p>○「放課後子ども広場」 ・あそび広場 40 回開催 ・学習支援 40 回開催 対象：小学生 小学生が歩いて行ける場所に放課後の子どもたちの集いの場・居場所を設置し、子どもが異年齢・異なる学校の子どもの同士交流し、群れてあそび、コミュニケーション能力や協調性を養う。あそび広場の他、有料の塾に行けない子を対象に指導者による学習支援を行う。</p> <p>○「こどもライブフェスタ」「こどものまち」など、子どもが自ら企画する活動をサポートする。</p> <p>○「子ども食堂」 ・月 1 回 先着 100 名 子どもにカレーなどを配食（無料）ひとり親世帯や生活困窮者は優先（現在行っている活動で名簿あり）</p> <p>○「子どもと高齢者の交流」 ・高齢者サロンで作成した「布芝居」を、近隣の保育園や小学生・高齢者に、高齢者が披露したり、「布芝居美術館」を開催する。</p> <p>○子ども夏まつり ・年 1 回 子どもスタッフが企画し、夏まつりにふさわしいあそびコーナーを設置、近隣の子どもたちに来場してもらう。</p> <p>○困り事相談業務 ・子育ての悩みや生活の悩みの相談窓口を常時設け、必要があれば行政につなげる。</p> <p>○「みさと子育て応援フードパントリー」 ・参加団体として、年 6 回、みさと団地会場の運営に携わる。</p> <p>※年 1 回行っている「みさと子育てフェスタ」は 20 回目を迎えた。初回から現三郷市子ども家庭センターと共催し発足し協力を得てきた。現在、三郷市は後援。 ※昨年 8 月に「三郷子どもの居場所ネットワーク」を子ども食堂やパントリーの 8 団体で立ち上げ、M i K Oねっとも参加、ひとり親世帯・貧困世帯にもよりそう。</p>

実行団体 No.2

団体名	鶴が丘一丁目町内会
所在地	宮城県仙台市泉区
申請事業名	多世代でシェアし子供の成長と街の活力を育むコミュニティ・チャレンジ
事業の概要	<p>団地内で子ども達の元気な声が失せ子育て世代が抜け落ちた歪な社会になる前に、身近な子供たちの困難にも目を向け、コミュニティとしての街の未来も考えていくことが必要である。コミュニティの要となる我々町内会は、その第一歩として東日本大震災後の子供支援の互助活動として地域住民と大学生との協力の下、学習支援の場づくりに取り組み、子供から大学生・大人・高齢者までの多世代交流を喚起してきた。本事業では、ここでの経験をもとに、子供たちへの多世代による取組みを更に前に進め、より多くの人々が関わり高齢者も学生たちもやりがいを持って子供と触れ合える交流フィールドを広げ、地域もシェアする子育て支援を通じ街全体に活気を与え様々な地域課題にも皆でチャレンジできるコミュニティ環境を整備するものである。</p> <p>具体的には、【Step1】集会所・公園緑地など屋内外のコミュニティスペースをフルに活用し、子供たちの多様な学びと遊び・自然体験の場となる学習教室・プレーパーク・花壇・菜園づくりなど一年を通した「キッズ交流」のフィールド活動を展開する。</p> <p>更に【Step2】菜園の収穫作物も使った食育活動として地域カフェや芋煮会・焼き芋づくりなど季節の風味を共に味わう隣人感覚の食交流の開催や、世代を越えて親しまれてきた駄菓子屋コーナーの設置など「昔ながらの団欒交流」のコミュニティ・フィールドを再現する。</p> <p>また【Step3】これらの交流活動を持続可能にするための「集会所の拠点整備」と多世代のサポーターが集う「(仮称) 未来応援クラブの創設」を行い、学生ワークショップや地域包括支援センター・民生委員等によるサテライト相談窓口を設け、子供のみでなく多世代に及ぶ生活相談や地域の空家問題等にも専門セクターも参加し対応できるコミュニティ・ネットワーク環境を順次拡充していく。多世代での応援展開により団地再生に貢献していくチャレンジ事業である。</p>

団体名	特定非営利活動法人 国際交流促進協議会
所在地	東京都港区
申請事業名	子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業
事業の概要	<p>核家族化、近所付き合い希薄化、子どもたちが集まれる場所の減少により、松が谷団地でも子どもたちが放課後に安心して過ごせる場所が求められている。そこで新しい放課後の居場所「寺子屋 GLOCALPOINT（仮）」の運営を行い地域ニーズ課題解決に努める。</p> <p>この拠点ではあらゆる家庭の子どもが集まれる駄菓子コーナーを子どもたちの新たな居場所としスタッフとの気軽な接点を作る。</p> <p>子どもを中心に安価で食事ができる場所をつくりコミュニティダイニングの定期開催を通し、子どもたちが自由に食事と交流ができる場所を提供することで経済的困窮など家庭内に課題を抱える子どもの支援、日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援に取り組む。</p> <p>更に拠点では以下のサービス提供を行う。</p> <p>◆英語教室、外国人との異文化交流</p> <p>◆授業補習教室</p> <p>各教室により社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援に取り組み、異文化交流により孤独孤立や社会的差別の解消に向けた支援を行う。</p> <p>また団地に住むシニアにサポート役を担ってもらい住民が関わるコミュニティを作ることので、安心して子どもが通うことができる環境に繋げる。</p> <p>◆課題解決 DX</p> <p>定期的なアンケートにより、団地の課題を収集し、解決に向けたイベントを企画開催し地域の働く場づくりや地域活性化などの課題解決に向けた取組支援、安心安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援を行う。</p> <p>団地内課題の情報共有を行い、相互支援に繋げることで社会的課題に取り組む人材育成、世帯間の交流活性化を行う。</p> <p>スマホ、PC で世の中と繋がることも多いひきこもりの子どもに情報交換・共有手段を通じ社会への関わり、参加のきっかけとなるよう支援を行う。</p> <p>これらサービス提供を通じて新しく創出されたコミュニティの中で団地内課題解決を相互支援によって行えるよう支援し、子ども、住民が安心して過ごすことができる団地を創る支援を行う。</p>

実行団体 No.4

団体名	特定非営利活動法人わっぱの会
所在地	愛知県名古屋市北区
申請事業名	大曾根住宅の中の総合交流拠点「ソーネおおぞね」を活用した子育て支援事業
事業の概要	<p>2018年に誕生したソーネおおぞねでは当初より地域の子供や高齢者を含んだ地域住民の総合交流拠点として事業展開をしてきている。子どもたちが店員としての生の労働体験を行なう。「キッズカフェ&ショップ」を開催してきた。地域の子どもや高齢者を対象とした「ソーネみんなでゴハン」という地域食堂の取り組み、地域の子供たちへの食糧支援、学習支援という取り組みも継続してきた。ソーネおおぞね内には駄菓子の販売コーナーがあったり、ダイニングカフェにおいてはキッズスペースが設けられ子供たちが来やすい環境になっている。加えて名古屋市青年会議所の協力を得て「みらいチケット」で、子どもたちに無料の食事提供も行ってきた。</p> <p>これらの様々な活動も「キッズカフェ&ショップ」の規模縮小「ソーネみんなでごはん」が弁当配りへと制限されたり、学習活動も終了したり更にみらいチケットも青年会議所の活動も3ヶ月で終了したりと様々な停滞・困難をきたしている。また「ソーネおおぞね」は多世代交流の場であるが、静かにしたい高齢者と騒ぎたい子どもたちといった共存困難な課題も抱えている。そこで一定の空間の仕切りが大切と考え、高齢者が静かにできる空間、子供たちが駄菓子コーナーを中心にいつでも自由に過ごせ、ボランティアとの交流できる子どもコーナーの新設するといった思い切った改造を行いたい。</p> <p>そして好評だったいつでも子供たちが好きな時に自由に食事を楽しめて無料の「未来チケット」の復活、「キッズカフェ&ショップ」の拡大充実「ソーネみんなでゴハン」のホールを活用した食事空間の再出発といった活動を再生・発展させていきたい。そして学習活動、相談活動もしっかりと機能させていきたい。この6年で築かれてきた大曾根住宅自治会や周辺学区自治会、地元小学校との関係を一層緊密化することで大曾根地域共生の街づくりの構想へと高めていきたい。</p>